



これからの社会に大学が 地域や企業に貢献するために必要な視点

地域連携推進センター長 鈴木 英樹



皆さん、こんにちは。本学の地域連携推進センター長を拝命しています鈴木英樹です。この冊子を、学位記授与式の合間に目にさせていただいていることを思い浮かべながら、本学の地域連携推進センターのこと、大学が目指そうとする地域や企業への貢献のありかた、などについて私見を交えお伝えします。

本学の地域連携推進センターは2014年に発足(2017年名称変更)し、「地域連携に関する基本方針」を基盤として活動しています。そこには「地域に開かれた大学」「地域課題解決のための人材育成」などが基本方針として謳われ、その方針を具現化するために「地方自治体との包括連携協定による地域発展のための諸事業の実施」「人材育成と教育の充実」「地域課題解決に向けた研究の推進」、そして地域社会一般の教養啓発を目的とした公開講座の開催などを実施しています。

2024年度末での実績として、当別町、滝川市、苫小牧市、浜頓別町、北広島市、由仁町の6市町と包括連携協定を締結し、協定に基づく諸事業を展開しているほか、主に札幌市内や当別町内に年間60回以上の公開講座を開催し多くの方が受講されるなど、実績を上げています。

このように述べると、「本学が地域に対し様々な取り組みを行っているのだなあ」と目を細められる方も多いと思いますが、私の考えは少しそれとは異なっています。本学には300人以上の教員が在籍し、3,000人以上の学生を有しています。そして、

広大なキャンパスや様々な機器備品を供えています。それらの数や規模から考えてみると、本学が取り組んでいけることにはまだまだ「伸びしろ」があるのではないかと考えています。

大学の使命として挙げられる項目に、「教育」「研究」そして「地域や社会への貢献」があり、どれも同等に重要であることがよく言われていて、本学でも、教職員がそれぞれに取り組んでいます。しかし、これからの時代においては、教育・研究・そして社会貢献が相互に関連しているという視点をさらに強く認識し、地域や社会の実装や地域課題解決のための主体的な行動や思考を有する必要があります。

「6次産業化」という言葉があります。1次(生産)、2次(加工)、3次(販売・流通)を掛け合わせた造語ですが、大学が持つ知的・人的・物的資源を社会のために役立てていくには、1次のみでは不十分であり、どのように活かすべきかを先方に委ねるのではなく、大学側が主体的に提案することが6次化のカギだと考えています。「大学は何をしているのか」ではなく「大学が有する資源や知見を通して地域や社会にどう役立ててもらおうのか」を積極的に発信するとともに、教職員一人一人がそのことを頭に置きながら地域貢献に係る実践に取り組んでいただけるよう、そして大学と地域の橋渡しをしていけるよう、センターとして取り組んでいきたいと考えています。

CONTENTS

これからの社会に大学が 地域や企業に貢献するために必要な視点	1
自治体との連携について	2
地域貢献活動・職業体験イベント	4
学生の活動について	6
ポラリス基金のご案内	7
定年を迎える先生からのメッセージ	8
同窓会活動状況	10
TOPICS	12
EDITOR'S NOTE	